

# The Realities and Problems of Kanji Education in Russian Higher Educational Institutions: The Results of the Interview of Russian Teachers of Japanese Language

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/34598">http://hdl.handle.net/2297/34598</a>

# ロシアの高等教育機関における漢字教育の現状と問題点 —ロシア人日本語教師を対象としたインタビュー調査を中心に—

人間社会環境研究科 人間社会環境学専攻  
ブシマキナ・アナスタシア

## 要旨

非漢字圏日本語学習者にとって、漢字は学習上の負担が大きいということがよく指摘されている。筆者は、非漢字圏学習者、特に出身国のロシア人日本語学習者（以下、学習者と略）にとっての効果的な漢字学習方法を構築することに強い関心を持ってきた。2010年9月から2011年1月まで、ロシアの極東地域にある4つの大学にて、ロシア人日本語教師（以下、教師と略）を対象にインタビュー調査を行った。インタビュー調査は、現役の教師（合計7名）に「漢字教育」「漢字の授業」「漢字の教科書」などのテーマについて自由にロシア語で話してもらった。各インタビューを漢字授業、漢字教科書、辞書の使用、学習者と漢字学習法というカテゴリーに分け、それを基に分析を行った。分析の結果から、ロシアの漢字教育の実態と教師の漢字教育に関する意識の全体的な傾向について、次のことが分かった。

1) 漢字教育の実態と教授法については、学習者の自律学習が重視され、漢字は、基本的に授業では教えられていない、学習者各自が「自習」という方法で学ばなければならない現状が見られる。一方、学習者の自律学習を助ける漢字学習教材の不備についての言及が見られた。2) 教師は、辞書の使用が専門知識や能力に大に関わっていることを指摘しており、翻訳・通訳士を目指している学習者の「専門性」という観点から述べていた。「正しい辞書の使い方」というキーワードを使っている。3) 漢字学習に関わる認知と情意レベルの問題が目立っていた。例えば、学習者の漢字に対する「恐怖感」について言及する教師があり、教師として、学習者の漢字学習へのモチベーションを高める方法などについて述べていた。

ロシアの高等教育機関にて日本語を主専攻として学んでいる学習者の専門性を考慮に入れ、漢字と漢字語彙の知識、辞書の使用法などを教えるための教材や教授法を考えたい。

## キーワード

漢字教育, ロシア人日本語教師, インタビュー調査, 自律学習, 辞書使用

## The Realities and Problems of Kanji Education in Russian Higher Educational Institutions: The Results of the Interview of Russian Teachers of Japanese Language

BUSHMAKINA Anastasia

## Abstract

It is often stated that learners of Japanese from non-kanji language backgrounds have a big

burden when studying kanji. This study focuses on finding an effective way of teaching kanji to learners from non-kanji language backgrounds, particularly Russian learners of Japanese (referred to as Learners afterwards). From September, 2010 to January, 2011, the author conducted research interviews of Russian lecturers of Japanese (referred to as Lecturers hereafter) at 4 universities in the Russian Far East. The interviews were conducted with seven Lecturers teaching at present in a form of free talk on topics including kanji teaching, lessons and textbooks. Interview responses were then analyzed and separated into the topic categories of “kanji lessons,” “kanji textbooks,” “dictionary usage,” and “learners and kanji teaching methods.” Results of this analysis showed the following picture of general tendencies in the Lecturers’ perception of kanji teaching and of realities of kanji teaching in Russia:

- 1) Regarding teaching realities and methods, the Learners’ autonomy is considered to be crucial. Kanji are generally not taught in class, so Learners have to study them on their own. On the other hand, flaws were noted in the kanji textbooks used to support autonomous learning.
- 2) Lecturers indicate that dictionary usage greatly depends on Learners’ specialized knowledge and abilities, particularly the specializations of Learners training to become interpreters. The expression “correct dictionary usage” was used.
- 3) The problem of knowing Learners’ levels of motivation to learn kanji stood out. For instance, some Lecturers mentioned “the fear” of kanji in Learners and what they do as Lecturers to raise their motivation to learn them.

The author aims to study teaching materials and methods to teach knowledge of kanji and kanji compounds, of dictionary usage and so on, bearing in mind the specialization of Learners that have Japanese language as their major in institutions of higher educational in Russia.

## Keywords

Teaching Kanji, Russian Teachers of Japanese Language, Interview, Learner’s Autonomy, Dictionary usage.

## 1. はじめに

非漢字圏日本語学習者にとって、漢字は学習上の負担が大きいということがよく指摘されている。

非漢字圏日本語学習者は、初めて漢字を習う時も、中上級に上がっても、学習すべき漢字の数、その漢字の字形や読みの複雑さから漢字辞典の調べ方の難しさまで、多岐にわたる問題に出会う<sup>1)</sup>。近年、これらの問題を解決するため、非漢字圏日本語学習者を対象とした漢字学習に関する研究が数多くされているが、その中には英語を母語とする学習者を対象とした研究が多い（大北1995, B, Bourke & Anderson, S 1998, 中鉢2006）。しかし、漢字学習法はもちろん、言語学習法全体は、学習

者が置かれている言語環境や文化、社会情勢や教育制度などにより大きく変わることが予想され、英語圏以外の国や地域の学習者を対象とした研究を行うことも意義があると考えられる。筆者は、出身国のロシアの極東地域にある4つの大学にて、漢字教育の現状とロシア人日本語教師（以下、教師と略記）の漢字教育に関する意識とロシア人日本語学習者（以下、学習者と略記）の漢字学習についてのピリーフ<sup>2)</sup>を調査した。このうち学習者を対象としたピリーフ調査の結果については、ブシマキナ(2011)で発表したもので、本稿では、教師の漢字教育に関する意識についての調査結果について考察した。

## 2. 先行研究

### 2.1 ロシアの高等教育機関における日本語教育の状況と漢字教育

2000年以降のロシアの高等教育機関における日本語教育の状況を論じたものには、稲垣他(2003)、藪崎(2006)、マシニナ(ブシマキナ)(2009)などがある<sup>3)</sup>。

稲垣他(2003)は、ロシアのモスクワ市とウラジオストック市<sup>4)</sup>の高等教育機関における日本語教育の実態(日本語のカリキュラム、教師、教材に関する情報、日本語教育の問題点)を調査した。その結果、地域によって、または教育機関によって、日本語教育に対する理念や目的が異なっているものの、「文法的に正しい日本語を教えるべき」と「漢字重視」という考え方が調査対象となった全機関で共通すると報告している。

マシニナ(ブシマキナ)(2009)は、ロシアの極東地域にあるハバロフスク市の極東国立人文大学の日本語コースのカリキュラムや内容、学習者の卒業後の進路などについて調査し、当大学における日本語教育の問題点であるカリキュラムの不整備や教材不足などについて考察している。また、漢字教育に関して、コミュニケーション重視の教育がなされるようになったために、漢字教育がカリキュラムからほとんど消えた時期があったが、現在はコミュニケーション教育と書き言葉や正確な文型を重視する教育が両立できるような教授法が行われるようになり、漢字教育も前と同じように重視されるようになったことを指摘している。一方で、漢字教育の問題点として漢字に特化した科目のカリキュラムがないことなどを挙げている。

このように、先行研究からは、近年ロシアでは漢字教育が重視されていることがうかがえるが、まだ漢字教育の実態や問題点については十分に調査と検討がされているとは言えない。

藪崎(2006)は、自分のモスクワでの日本語教育の経験を振り返り、ロシアの日本語教育の現状と問題点について、学習者の誤用例やロシアで出

版されている教材の問題など、多方面から分析している。漢字指導の問題については直接触れていないが、文字・表記の指導という面に着目し、ロシアで出版されている教科書や参考書の字体が学習者の手書き文字に悪影響を与えていることを指摘し、学習者が手本とするべき教科書の見直しが必要であると述べている。

ブシマキナ(2011)は、ロシアの極東地域における高等教育機関にて日本語教育を受けている学習者を対象に実施した漢字学習についてのピリーフ調査の結果を報告している。学習者の漢字学習に関する意識について、ロシア人学習者は漢字学習への関心が深い一方で、その上達は学習者の努力にゆだねられると考える傾向が明らかになったことを述べている。

### 2.2 学習者について

学習者の特徴を調べた研究には、木谷(1998)がある。木谷(1998)はロシアの極東地域にて、学習者の言語学習観に関する調査を実施した。極東ロシアの学生の特徴として、以下のことを挙げている。

- ① 教師主導の授業に慣れており、教師依存的な傾向が見られる。
- ② 言語学習者としての自律性が必ずしも高くなく、特に自己モニターの習慣はあまり確立していない。教師からのフィードバックや評価に頼るところが大きい。
- ③ 自国の教授法や教師を信頼しており、それが外国語習得に対する自信の根源にある。
- ④ 文法や翻訳の学習が言語学習の最重要部分だと考える傾向が強い。また「話す」より「読む・書く」の方が易しいと感じている傾向が見られる。
- ⑤ 間違いや誤りに対する寛容度は比較的高く、コミュニケーション重視の教室活動にも積極的に参加できる可能性が感じられる。
- ⑥ 地理的特殊性から日本社会との経済的関係の発展に大きく期待を寄せており、日本語

表1 被調査者のプロフィール

被調査者	性別	日本語教育歴	所属1	役職	専門分野
K1	女性	3年間	A大学	日本語講師	日本語通訳・翻訳
K2	女性	3年間	A大学	日本語講師	日本語通訳・翻訳
K3	女性	7年間	B大学	准教授	日本文化・歴史(博士)
K4	女性	3年間	A大学	日本語講師	日本語通訳・翻訳
K5	女性	6年間	B大学	日本語講師	経済学
K6	女性	5年間	C大学	日本語講師	日本語学
K7	女性	4年間	D大学	日本語講師	経済学

習得がその重要な足がかりになると考えている。

木谷は言語学習者の自律性に注目しているが、本研究でも、漢字学習における学習者の「自律性」を重要な視点と位置づけている。

### 3. 調査の概要

本調査の目的は、これまであまり調査されてこなかった「教師」という視点からロシアの漢字教育の現状を把握し、漢字指導の特徴を見出すことである。その方法として、2010年9月から2011年1月まで、ロシアの極東地域にある4つの大学(A大学～D大学)<sup>5)</sup>にて、現役のロシア人日本語教師7名(以下K1～K7と略)にインタビューを実施し、その結果の検討を行った。

インタビューの被調査者のプロフィールは以下の表1の通りである。

インタビューは筆者が一人で行った。インタビューを始める5分前に、口頭で「日本語教育と漢字教育」、「カリキュラム」、「漢字を教える」、「漢字の授業」、「漢字の教科書」というキーワードを提示した。これらのテーマについて、何でも頭に浮かんだことを自由にロシア語で話してもらった。基本的には、インタビューアが口を挟まないことにしたが、インタビューの途中で発話内容の確認等を適度に行った。ICレコーダーを使用して、インタビューを録音した。

K1～K4のインタビューは対面形式、K5～K7のインタビューはインターネットを媒介とし、音

表2 インタビューの概要

	実施日	実施場所	所要時間	発話文の数
K1	2010. 09. 22	ハバロフスク市内	23分21秒	210発話文
K2	2010. 09. 21	ハバロフスク市内	45分20秒	344発話文
K3	2010. 09. 17	ウラジオストク市内	18分12秒	138発話文
K4	2010. 10. 07	ハバロフスク市内	18分23秒	179発話文
K5	2010. 10. 12	スカイプ	22分44秒	219発話文
K6	2010. 12. 10	スカイプ	12分54秒	112発話文
K7	2011. 01. 20	スカイプ	28分09秒	227発話文

声通話ソフト「スカイプ」を利用してビデオ会議形式で行った。

録音したインタビューはロシア語で書き起こし、文字化資料とした。そして、資料の分析単位を1発話文(ロシア語の1センテンス)と定めた。その後、日本語に訳した。行ったインタビューの概要を表2にまとめた。

### 4. 調査の結果

本節では、ロシアの高等教育機関における漢字教育の特徴と教師の意識について調べた結果を述べる。

まず全体的な傾向を見出すため、各インタビューを1「日本語コースのカリキュラム、授業の内容」、2「漢字に特化した科目」、3「漢字授業と教授法」、4「漢字教科書」、5「辞書、電子辞書」、6「学習者と漢字学習法」、7「その他」、という7つのカテゴリーを設定し、各インタビューの発話

表3 カテゴリー別インタビューの発話文数

被調査者:	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7
発話文総数 = n カテゴリー	210文	344文	138文	179文	219文	112文	227文
1 カリキュラム	76文 (36%)	67文 (19%)	65文 (47%)	23文 (18%)	72文 (33%)	18文 (16%)	10文 (4%)
2 「漢字」科目	54文 (26%)	7文 (2%)	11文 (8%)	12文 (7%)	29文 (13%)	8文 (7%)	16文 (7%)
3 教授法	66文 (31%)	56文 (16%)	46文 (33%)	89文 (50%)	111文 (51%)	69文 (32%)	75文 (33%)
4 教科書	29文 (14%)	22文 (6%)	6文 (4%)	26文 (15%)	36文 (16%)	44文 (20%)	13文 (6%)
5 辞書	60文 (29%)	101文 (30%)	61文 (44%)	52文 (29%)	56文 (26%)	71文 (32%)	77文 (34%)
6 学習者	70文 (34%)	112文 (33%)	47文 (34%)	52文 (29%)	63文 (29%)	43文 (38%)	69文 (30%)
7 その他	11文 (5%)	106文 (31%)	24文 (17%)	29文 (16%)	16文 (7%)	3文 (1%)	21文 (9%)

表の中の ( ) 内の数値は各被調査者の発話文総数 (n) に対する割合を表す。

文にタグ付けしていった。教師ごとのカテゴリー別の各発話文数を表3にまとめた。

7つのカテゴリーの発話文の内容を分析した結果、「自律学習」<sup>6)</sup>、「辞書の使用」、「学習者と漢字学習法」の3つのテーマに関する発話文の数が最も多く、全員の教師のインタビューに共通して話題になっていた。そこで、以下では「自律学習」、「辞書の使用」、「学習者と漢字学習法」の3つを取り上げ、具体的な発話を引用しながら、教師の考え方を探る。なお、元になった発話文はロシア語であったが、本稿では筆者が日本語に訳したものを示す。下線は筆者が付した。

#### 4.1 漢字授業と自律学習について

インタビューからは、対象大学の漢字教育について、漢字が教えられていないケースが多いということが分かった。授業では漢字を教えると言っても1年生の初期のみであり、漢字の書き方、意味、音読み、訓読みを紹介する程度に過ぎないことが分かった。学習者各自が「自習」という方法で漢字を学ばなければならない現状が見られた。

例1)「1-2年では、漢字を勉強しない、教えないことが多い。日本語のクラスでは、主教材として『みんなの日本語』<sup>7)</sup>を使っているが、これは、漢字に振り仮名が全部振ってある。また、教師はあまり漢字に焦点を当てた

りしない、必要だと思わない。「時間がない」とか「授業の数が少なくて」というのを理由にして。」(K1:発話文#64-68)

例2)「授業では、漢字の勉強はしません、学生は覚えてきた漢字のテストを書くんですね。授業では、まあ、例えば、少し漢字学習に時間を使うなど、それはしないですね。」(K2:発話文#103-104)

ただし、授業が少ないために、自習が必要とされているだけでなく、さらに自分の学習を管理して漢字の勉強を進めることが重視されているようである。つまり、学習者に自律学習<sup>5)</sup>が求められているということが分かった。以下、自律学習についての教師の発話を挙げる。

例3)「実は、漢字の学習は、私の意見では、いくらクラスで勉強しても、自分にとってのシステムですね、制度がないと、効果がないと思います。ですから、いつも学生にこう、システムの漢字を勉強するように言います。どういうことかと言うと、例えば、自分で毎日5つの漢字を覚えるようにするなど。読み物に出た漢字から始め、少しずつ漢字の数を増やし。」(K4:発話文#151-154)

例4)「漢字を覚える方法、一つ一つの漢字ではなくて、全体として、「漢字が上手になる」ための一番良い方法は、自分できちんと勉強

することです。初期では漢字カードを作ったり、漢字のストーリーを作ったり、中上級では日本語をたくさん読んだり、日本語で日記を書いたり。(中略) 一番大事なものは、いつも学生に勧める方法は、自分にとっての良い方法を見つける。そして、(その方法一つではありませんね)、そのいくつかの方法のコンビネーションから、自分に合う漢字学習システムを作るんです。」(K5:発話文#215-218)

これらの教師の発話からは、漢字の授業が少ないので「自習」が必要であるが、単なる自習ではなく、漢字の学習を自分で管理したり、漢字を自分なりに覚える方法を見つけ出すべきだとしながら「自律学習」を求めていることが分かる。

ここまで見てきたように、今回インタビューを行った機関では、漢字教育は「自習」という形式で行われることが多いことがわかったが、それだけに、学習者の自律学習を支える漢字学習教材の役割が大きくなる。しかし、今回のインタビューでは、漢字学習教材の不備についての言及が多く見られ、教師はロシアの大学で使用できる漢字学習教材の必要性を感じていることがうかがえた。

例5)「しかも、でも、システムの漢字学習をサポートする教材がないですね。BKBやIKBの4冊<sup>8)</sup>のようなものがない。初級向けのもの、導入のものもない。ロシア人向け、ロシア語母語話者向けのものが、この学科で使われている教材、また図書の中にもないですね。ロシア人向けのものじゃなくても、日本のもの、日本で出版されているものもないですね、「授業で使える」というもの。」(K1:発話文#108-111)

例6)「ロシア語で出版されているもの、(中略)習字の手本ばかりですね。ちゃんとした教材になると、日本から注文しなければならぬんですよ。教材っていうのも大きな問題ですね。」(K2:発話文#125-129)

このように、漢字を学ぶシステムを提案した教材の不足や、ロシア人学習者のニーズに適合した教材の必要性を述べる発話が見られた。

## 4.2 辞書の使用について

次に、漢字学習と辞書の使用についてのインタビュー結果を述べる。

教師K1は、学習者の卒業後の進路を視野に入れた話をしている。文章を訳す際、漢字の能力が足りないと成功できないということについて言及していた。また、翻訳・通訳士の道具である辞書について、正しく使えないと困るということ述べている。

例7)「今はみんな「翻訳・通訳」という専攻に(変わりました)。ええ、翻訳でしたら、書き言葉もしっかり、学生は、しっかり読むことができ、読んだ後しっかり訳すという能力が身につくはず。ですけれども、漢字の知識が足りなくて、初めてみた文章を翻訳すると、大変なことになります。(中略)辞書を使ってもできない、訳せないことが多いです。なぜなら、辞書も正しく使えないからです。しかし、翻訳・通訳士にとって、辞書というのは一番大事なツールで、正しく使えないと困りますね。」(K1:発話文#132-134; 136-138)

例8)「漢字の知識が足りないから、ちゃんと翻訳する、そのこと自体に集中できない。一つ一つの漢字を辞典で、しかも機械的にですね、辞典で調べる。」(K1:発話文#175-176)

他の教師も「正しい辞書の使い方」というキーワードを頻繁に使っており、辞書の使用は学習者の専門知識や能力に大に関わっていることを指摘している。「正しい辞書の使い方」という戦略は現在教えられていないものの、翻訳・通訳士を目指している学生にはぜひとも身につけさせるべき戦略であると考えられていることがうかがえる。

例9)「(前略)例えば、辞書の問題と学生にとっての辞書の使い方です。電子辞書にしても、普通の冊子の辞書にしても、学生は正しく使えないのは、事実ですが、それは当然のことだと思います。何というか、そうですね、使えないんですね。しかも、辞書の使い

方、主に語彙の選択って本当に大事なのに、練習する方法がないかも知れません。あったら良いと思います。」(K4:発話文#127-131)

また、インタビュー結果に現れている「辞書の使用」というのは、教師の具体的な発話文を見ると、漢字字典で単漢字の意味・読み・字形などを調べること、または和露辞典で未習の語彙の意味や使用法などを調べること、あるいは露和辞典でロシア語の日本語訳を調べることなど、いくつかの異なった「辞書の使用」を指しており、教師にとっての「正しい辞書の使い方」というのは、少なくとも3つの側面があることが分かる。以下に例を挙げる。

例10)「辞書使用の二つのパターンがあるんですね、二つの極端な例が挙げられる。(中略)まあ、日本語からロシア語に訳す時、まだ何とかできます。しかも、ロシア語から日本語に訳す場合、ここは、もう大変ですね。」(K4:発話文#121;123-124)

例11)「漢字を辞書で調べることについて、是非知ってほしいことですね。慣れれば、漢字辞典を正しく使うようになったら、このレベルの文章の翻訳もそんなに難しくないと思う。」(K5:発話文#222-223)

### 4.3 学習者と漢字学習法について

ここでは、学習者と漢字学習法についてのインタビュー結果を述べる。

学習者の漢字学習に関わる認知と情意レベルの問題が目立っている。教師は、学習者の漢字に対する「恐怖感」というキーワードを使い、漢字学習へのモチベーションの問題について言及していた。

例12)「学生は、「漢字が怖い、漢字が難しい！」と言っています。(中略)しかし、どうして、一体、漢字を勉強したくないのだからよく分からない。漢字を怖がっているんですよ！(中略)そのテストの日、学生の目を見たら、恐怖ですね。あまり楽しさを感じな

いんですね、こんな状況ですね。どうしてか、よく分からない。そもそも、漢字ってどんなものなのか知らなくて、漢字のシステムなんか(頭に)入っていないと思います。」(K2:発話文#285;287-288;294-296)

例13)「「漢字アレルギー」という用語を聞いたことがあります、こちらの学生もそのアレルギーを持っていると思います。ほとんどの学生は漢字を、まあ、作文とか、手で書くことを嫌がっています。また、はじめて見た文章についても、こう見たらすぐ辞書を開こうとします。「ちょっと待って、辞書は要らないかもしれない。まず、読んでみてください。」と言っても、聞かないんです。「漢字だらけだから、まず漢字を調べたいんです。」と答えます。知っている漢字でも調べたりする学生が多いですよ。「知っているけど、自信がない。」、「漢字を見たら、読めないと思って怖いです。ストレスがたまって。」などのような言い方をするんですね、学生は。」(K7:発話文#190-196)

### 4.4 結果のまとめ

以上、ロシアの高等教育機関における漢字教育の特徴と教師の意識についてのインタビュー調査の分析を行った。調査の結果をまとめると、以下1)～4)のようになる。

- 1) 学習者には、授業の時間の不足もあり、自習が求められている。しかし、単なる自習ではなく、学習者が自分から進んで漢字を学習すること、自分に合った方法を模索することなどが期待されており、自律学習の必要性が重視されている。
- 2) 漢字教科書の不備についての言及があった。ニーズに合うロシアで出版されている漢字教材が不足していることが分かった。教材の必要性は、1)の自律学習を支えるものとしても重視されるべきである。
- 3) 教師は、「正しい辞書の使い方」というキーワードを使用していた。辞書使用は、専門知識



や能力に大いに関わっているのです、しっかり身につけさせるべきだが、実際に教えられていないという意見が見られた。

- 4) 学習者の「恐怖感」についての言及があり、漢字学習へのモチベーションの問題があることが分かった。

## 5. 考察

インタビュー調査の分析から明らかになった点を踏まえ、ロシアでの漢字教育の問題について考察する。

### 5.1 ロシアにおける漢字教育と自律学習の可能性

ロシアでの日本語教育に限らず、漢字学習は学習項目が多く、時間の制限の問題もあるので、授業中に全て扱うのは困難である。また、学習者によって、学習スタイルや学習ストラテジーの個人差があるため、漢字学習こそ、学習者一人ひとりが、自分の漢字学習の内容や方法を選択し、実施することが求められる。つまり、漢字教育には自律学習が欠かせないと言えよう。

ロシアは2003年に、いわゆるボローニャ・プロセス<sup>9)</sup>に参加して以来、米国やヨーロッパの諸国の教育制度との統一を目指し、欧米の教育制度の重要な概念も積極的に取り組もうとしている。学習者の「自律性」もその一つであると言えよう。今回のインタビュー調査では、教師が漢字学習に関して「自律性」という用語を使用し、学習者の自律的な学びの重要性を語っているが、これはロシアの高等教育制度改革に向き合っている教師の意識の表れであると思う。

一方、ロシアでの外国語教育においては、学習者の「自習」が、伝統的に重視されてきた。現在、ロシアでは、この「自習」と「自律学習」という2つの概念の違いに関して、外国語教育に携わっている教育者の間でも未だに明らかにされていないことが指摘されている (Levchenko 2006)。本調査の対象となった4つの大学の漢字教育の実態

をみると、実際に、漢字の「自律学習」まで行き届かず、漢字学習は学習者に任せられ、「自習」形式で行われている。ここには、教師の「自習」と「自律学習」のとらえ方や、自律学習を支援する役割に関する意識の曖昧さが表れている。今後、漢字学習の可能性として自律学習を視野に入れる際、自律学習と自習の違いについて明らかにする必要があると同時に、学習者側の自律学習に関する意識にも着目する必要があると考えられる。学習者の言語学習観を調査した木谷 (1998) では、学習者側は自律学習の意識が非常に低いということ指摘しているが、自律学習を本当の意味で教育に取り入れていくためには、自律学習に関する学習者側の意識を変えなければならない。

学習者の自律学習と教師の役割について考えると、自律学習の支援や自律性の育成という2つの重要な点が挙げられる。自律性を育てる漢字学習指導の特徴や要点を見出し、ロシアの現場において実施することが今後の漢字教育の大きな課題であると思う。

自律学習の支援を行うためには、様々な教材やツールが必要である。しかし、今回の調査結果から、漢字学習と漢字指導の教材が不足していることが分かった。ロシア在住の教師にとって、日本で出版されている教材の入手は難しい。また、出版されている漢字学習教材が多様であるにもかかわらず、ロシアの高等教育機関での日本語教育にふさわしいものがないということは、教師にとって大きな問題である。今後は、ロシアの現場で使用できる漢字学習、また漢字指導のための教材開発が望まれる。そのため、教材開発に当たって、ロシアの現場で使用できる良い教材とは何かということを検討する必要があり、今後の課題にしたいと思う。

また、近年の海外における漢字教育の実践報告では、インターネットや携帯電話など、電子ツールを使用した漢字指導の例が見られる<sup>10)</sup>。ロシアでの漢字教育と自律学習の可能性に関して、インターネット上のリソースの使用についても検討されるべきであろう。

## 5.2 漢字・語彙学習と辞書使用：「正しい辞書の使い方」

前述したように、教師は「正しい辞書の使い方」というキーワードを使用していた。辞書使用は通訳・翻訳士を目指している学習者にとって、必要不可欠な能力である。ここでは、ロシアでの漢字教育について、辞書の使用という観点から考察する。

調査結果から「辞書の使用」というキーワードは、3つの異なった意味で使われているということが分かった。以下、それぞれの意味について考察する。

教師側から見た漢字辞典の正しい使い方について考えると、「漢字の何を調べるか」、「何を手掛かりとして調べるのか」、「どんな辞典で調べているのか」など、様々な課題がうかがえる。例えば、単漢字の意味を調べる際に、複数の意味を持つ漢字から、どんな基準で一番適切な意味を選択するか、漢字の画数で調べる際に、画数が正しく数えられるか、手元にある漢字辞典では何を手掛かりにして調べられるか、等の問題が存在する。学習者がこれらの問題を解決できれば、教師の言う「正しい使い方」に繋がるであろうが、今後は教師側から見た「漢字辞典の正しい使い方とは何か」について明らかにする必要があると思う。

また、学習者の意識、学習者は漢字辞典の何が難しいかと感じているかということも考慮に入れ、「漢字辞典の正しい使い方」の指導法が望まれる。指導法の提案の一つとして、最近の研究では、例えば、ヴォロビョーフ(2011)がある。ヴォロビョーフは、漢字学習を難しくする要因についてまとめ、その一つとして「漢字辞典の調べ方が難しい」という点を挙げており、漢字辞典の調べ方の効率化を目指した漢字のコードに基づく新しいタイプの索引を提供している。今後もこのような提案の普及やロシアの教育現場への応用が期待される。

和露辞典と露和辞典の使用に関しては、「文脈の中で考える」という能力がとても大事であるが、この能力を育成する指導法、そのためのコー

ス・デザインや教材の開発は今後の大きな課題である。

また、ロシアで出版されている辞書が少ないことと、その大半の内容が現代に合わなくなっていることが指摘できる。例えば、現代日本語として使われなくなった語が含まれているというような問題がある。今後の辞書使用の指導を考える上で、新しい露和／和露の辞書の開発が期待される。また既存の辞書も時代遅れだからと言って使えないという訳ではなく、使う際の注意点などを明らかにし、学習者に教えることが望まれる。

以上の問題を踏まえた上で、「正しい辞書の使用」の能力を身につけさせる方法とはどのようなものかについて考え、漢字・語彙学習の一環としての辞書使用の指導法を提案することを今後の課題にしたい。

## 5.3 漢字学習へのモチベーション

教師は「漢字アレルギー」や「恐怖感」などについて言及していたが、以下、その原因について考察したいと思う。

本調査の対象大学と同じ大学に所属している学習者の漢字学習に関する意識を調べたピリーフ調査の結果からは、漢字学習に成功するか否かは、学習者の努力に左右され、教科書や教師に頼るより、学習者自身が一生懸命に勉強することが必要だという意識が強いことがわかっている。このことから、教師が言う「恐怖感」の原因の一つは、インタビューの中にも現れているが、現在ロシアの大学で実施されている学習者側の努力だけに頼るような漢字学習方法にあると思われる。4.1で述べたように、教師自身が「自習」と「自律学習」の違いを意識していないこともあり、学習法から始め、新出漢字と一緒に覚える語彙の選択まで、そして学習自体もちろん、全て学習者自身に任せ、学習者側の負担が非常に重くなっていることが、上述の「漢字アレルギー」や「恐怖感」の原因につながっているのではないだろうか。

学習者のモチベーションの問題を解決するには、漢字教育の在り方を見直し、自習と自律学習

の違いを意識した学習支援体制の取り組みが必要であると思う。

## 6. おわりに

以上の考察から、今後の効果的な漢字学習方法を考える際の課題として次のことが挙げられる。

まず、学習者の自律性とは何かについての教師の気づきが前提となるが、学習者の自律性を重視しながら効率よく学習を継続できるような教材や授業の内容を検討する必要がある。またその際、ロシアの大学で日本語を主専攻として学んでいる学習者の特徴を考慮に入れるべきであるし、翻訳・通訳士を目指している学習者が必要とする能力とは何かについても考えなければならない。特に、辞書の使用については、様々な面からの検討が必要である。そして、これらの結果を基にロシアでの効果的な漢字学習方法を構築することを目指す必要がある。

## 謝辞

本研究を行うにあたり、プライバシーの関係で具体的なお名前を挙げられませんが、インタビュー調査にご協力くださったロシア人日本語教師の方々に謝意を表します。

## 付記

本稿は、2012年度の日本語教育国際大会にて発表したブシマキナ(2012)に加筆・修正したものである。

## 注

- 1) 言語学習ピリーフとは、言語(外国語)をどのように学習すべきか、言語学習はどのようなものであるかといった、言語学習に関する意見、考え方、信念のことである。
- 2) 非漢字圏の学習者にとっての漢字学習上の問題

に関して、海保&野村(1983)、トリーニ(1992)などが詳しく考察している。

- 3) 国際交流基金が2009年度にまとめたロシアにおける日本語教育機関調査では、高等教育機関数は61、学習者数は3500名以上であった。  
(<http://www.jpfi.go.jp/j/japanese/survey/country/2011/russia.html#JISSHI> 2012年10月25日)
- 4) 稲垣他(2003)は、ロシア語圏に含まれているカザフスタンのアルマトゥイ市の日本語教育の実態に関する調査結果を報告しているが、本稿では、ロシアの2つの都市、モスクワとウラジオストックの調査結果を扱う。
- 5) 教師のプライバシーに考慮して、具体的な大学の名前は伏せた。
- 6) 「自律学習」の定義は、青木(2005)「学習者が自分で自分の学習の理由あるいは目的と内容、方法に関して選択を行い、その選択に基づいた計画を実施し、結果を評価すること」に従う。
- 7) スリーエーネットワーク(1998)『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ』スリーエーネットワーク。日本語教育では広く使われている初級日本語教材。
- 8) 加納千恵子他(1993)『INTERMEDIATE KANJI BOOK』VOL.1, 2 凡人社
- 9) ボローニャ・プロセスとは、1999年にイタリアのボローニャで採択された『ボローニャ宣言』に基づく、ヨーロッパの高等教育の改革プロセスを指す。『ヨーロッパ高等教育エリア』(European Higher Education Area=EHEA)を設立することを目指す。
- 10) 例えば、川口(2010)では、フランスとドイツのいくつかの大学における漢字学習支援体制について報告し、これらの大学では使用されているインターネット上の漢字学習サイトやツールについて説明している。

## 【参考文献】

1. 青木直子(2005)「自律学習」日本語教育学会(編)『新版日本語教育事典』大修館書店 pp.773-775
2. 稲垣滋子・土井眞美・仲矢信介(2003)「ロシア語圏における日本語教育支援環境整備に向けて：モスクワ市、アルマトゥイ市、ウラジオストック市での基礎調査」『群馬大学留学生センター紀要』第3号, pp.15-37

3. ヴォロビヨワ・ガリーナ (2011) 「構造分析とコード化に基づく漢字字形情報処理システムの開発」『日本語教育』第149号, 日本語教育学会, pp.16-30
4. 大北葉子 (1995) 「漢字学習ストラテジーと学生の漢字に対する信念」『世界の日本語教育』第5号, pp.105-124
5. 海保博之, 野村幸正 (1983) 『漢字情報処理の心理学』教育出版
6. 川口さら子 (2010) 「ヨーロッパにおける漢字の教育と学習－自律学習の可能性－」『JSL漢字学習研究会誌』第2号, pp.52-58
7. 木谷直之 (1998) 「極東ロシアの大学生の言語学習観について－海外日本語教師研修のための基礎データ作成を考える－」『日本語国際センター紀要』国際交流基金, pp.95-110
8. トリーニ・アルド (1992) 「非漢字系学習者のための入門期における漢字学習指導の一考察」『世界の日本語教育』第2号, pp.65-76
9. 中鉢恵一 (2006) 「漢字学習ストラテジー－漢字学習成功者と未成功者の違いについて－」『東洋大学人間科学総合研究所紀要』第5号, pp.75-93
10. プシマキナ・アナスタシア (2011) 「ロシアの高等教育機関における漢字教育の現状とロシア人学生の漢字学習に対する意識－ビリーフ調査の結果から－」2011 (平成23年度) 第4回日本語教育学会研究集会 (福井県・福井大学) 発表要旨 <http://www.nkg.or.jp/kenkyu/kenkyushukai/2011/kk-11-04yoshi.pdf>
11. プシマキナ・アナスタシア (2012) 「ロシア人日本語教師にとっての漢字指導と問題点－ロシア人日本語教師を対象としたインタビューを中心に」日本語教育国際研究大会名古屋2012発表要旨
12. マシニナ (プシマキナ)・アナスタシア (2009) 「ロシアの高等教育機関における日本語教育－極東国立人文大学における日本語教育の実情と問題点－」『外国語教育フォーラム (金沢大学外国語教育センター紀要)』第3号, pp.64-74
13. 藪崎義雄 (2006) 「ロシアにおける日本語教育の現状と問題点」『創価大学大学院紀要』第28号 pp.149-172
14. B, Bourke & Anderson, S. 1998. Development of a Strategy Inventory for Learning Kanji (SILK) and its implementation in the Japanese language classroom. *Handout*, *Applied Linguistics Association of Australia 23<sup>rd</sup> Annual Congress. 30 June-3 July.*
15. Levchenko, E. 2006. Термины сферы образования тематической группы «Автономия учащихся & Learner Autonomy» в контексте проблем профессиональной межкультурной коммуникации / Е.В. Левченко. - С. 125-139